

余土地区タウンミーティング(要約)

平成25年9月1日(日曜)

【市長】 皆さん、こんにちは。今日は日曜日の午後です。ゆっくりしたいところだと思うんですけども、このような雨の降る中、大勢の方が集まっていたくださりまして、ありがとうございます。この余土地区のタウンミーティングの開催にあたりましては余土地区のまちづくり協議会の役員の皆様のご協力をいただきました。本当にありがとうございます。このタウンミーティングというのは、私が就任してから始めさせていただいております。市役所で待っているのではなくて、松山市は旧の松山市、旧の北条市、旧の中島町合わせて41地区に分かれるわけですけども、こちらのほうからその各地区に出向かせていただいて、各地区の魅力について聞かせていただく。まず魅力について聞かせていただくというのは、その地区の魅力は1番誰が知ってるかということ、そこの地区に住んでる皆さんが1番御存じだと思います。その魅力を生かしたまちづくりをできれば、どこのまちでも金太郎飴のようなまちづくりじゃなくて、その地区の魅力を生かしたまちづくりができればその地区はより輝きます。その41の集合体である松山市がそういうまちづくりを各地区でできればより輝くと言えます。ですので、まず魅力について1巡目のタウンミーティングでは教えていただきました。そして各地区でお困りの点、課題についても教えていただきました。市長の任期というのは1期4年48カ月です。地区は41地区ですので、大体1カ月に1地区のペースで回って行ければと思っておりました。このタウンミーティングでは大事にしていることがありまして、こちらから出向いて行こうっていうのと、もう一つ、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのがこの松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。皆さんからいただいた問いに対してここで答えできるものは、できるだけここで答えをします。私か担当者が話をさせていただきますけども、中にはこの場でお答えできないものもあります。例えば国と絡む案件、県と絡む案件、財政的な問題があるもの。こういうものは1カ月を目途に必ずお答えをするという形でやってきました。国に問い合わせると国から返事が返って来てとか、また県に問い合わせると県から返事が返って来てとか、それでまた松山市の方針を決めて大体1カ月を目途にということになりますけども、必ずやりっぱなしにはしない聞きっぱなしにはしないという形でやってきました。おかげさまで好評になりまして、思い切って4年でやるところを2年2カ月に1巡目の41地区が終わりました。ガス抜きとか形の上でタウンミーティング

をやるんだったら1巡目で終わっても良かったんですけども、私が市長をさせていただいてる間は、ずっとこのタウンミーティングを重ねていこうと思っておりますので2巡目に入らせていただきました。2年2カ月ぶりの余土地区でのタウンミーティングということになります。今日は小学生の方も来られているようですし、中学生の方も来られているようです。90分間という長い時間になりますので肩ひじ張っているとさすがに疲れてきますので、あまり肩ひじ張らずにぎくばらんには皆さんの地区のお話をさまざま聞かせていただけたらと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 失礼します。私は25年度の余土中学校のPTA会長をさせていただいております。よろしく申し上げます。それと27年度、余土校区の念願であった余土中学校移転を決意していただきましてありがとうございます。実は学校のほうともちょっと相談というか、色んなことで確認させていただいたんですけども、今は伊予鉄余戸駅の近くにあるのが56号線を渡って第3グラウンドに移転ということで、余戸西、余戸南の生徒さんたちの通学がものすごく不便になってくる。約半径とったら2.5キロぐらいで、第3グラウンドまでの距離が距離的にはそんなに中学生ですし負担に感じるとは思わないということだったんですけども、余土校区の場合、今の道、56号線を通る道の中を通ってくる余戸西とか余戸南の生徒さんたちは、ちょっと通学路に危険な部分がものすごく感じられると。もういっぺん通学路について検討してもらえないかとか、信号であったり、通学路のための道路の整備していただけたらなということ、中学校とも相談したんですけども、今日ちょうどこういう機会があったので、私が代表して発言させていただいてるんですけども、それはどんなでしょうか。

【教育委員会企画官】 生徒の安全面及び身体的負担面を考慮して、通学路というのは学校において決めることになっております。移転整備の設計業務を行う際に学校と意思疎通を図り、例えば新たな歩道橋の設置の要否等を考えてまいりたいと考えております。

【市長】 今、歩道橋が全くないんだったら話はまた違ったものになるかと思うんですが、ローズハウスさんの入口、あそこの東200メートルのところに歩道橋があって、西に500メートルのところにまた歩道橋があるということですので、皆様ともお話をしながら決めていきたいと思えます。そして通学路の状況ですけど、私の思い入れのある部分でございまして、去年の春に京都の舞鶴だったと思うんですが、通学途中のお子さんたちが車にはねられてという不幸な事件がありました。不幸な事故があり

ましたので、去年の夏にPTAの皆さん、保護者の皆さん、先生方、そして通学路は国道、県道、市道もあります。市役所、県、国、警察も入ってもらって一斉点検を夏休みにさせていただきました。中学校と小学校の数だったら、小学校のほうが多いですね。小学校を基礎ブロックとして各小学校での一斉点検をさせていただきました。皆様のご自宅でホームページ見られる状況でしたら松山市のホームページ見ていただいたら、全小学校で総点検させていただいて、危ないところはピックアップをしております。そしてただ出すだけじゃなくて、危ないところはこういうところが浮かび上がってきました、そしてどういう対処をしますというのが全部出ております。全小学校で出ておりますので見ていただいたらと思うんです。去年の夏休みに一斉点検をしたところを今、改修をしているところです。そしてまだ改修ができてないところも今後こういう方向でやりますよっていうのを出しますので、また見ていただいたらと思います。またもう一つやっていますのが、去年石井東小学校をモデル校でさせてもらったんですが、子ども目線の交通安全マップをつくっております。これはなぜ子ども目線の交通安全マップかということ、実は金沢にその代表的な例がありまして、今まで大体校区内で安全マップつくるときは家族に1枚マップを渡すんですね。そうすると大人目線と子ども目線って違いますよね。家族に1枚渡してしまうと、大人目線で子どもの意見がかき消されてしまうんです。なので、子どもにも必ず点検マップを渡して、「僕はここが危ないと思います。」「私はここが危ないと思います。」っていう子ども目線安全マップを去年石井東小学校で作成をいたしました。これでノウハウができましたので、今年度全小学校でこの子ども目線の交通安全マップをつくることにしております。ですので、小学校をまず一番数が多いですから基本形としてできていきます。やはり若い子どもさんのほうがより危ないですから、通学路の安全を向上していこうと思いますので、国道もある県道もある市道もある、警察の協力も仰がんといかん、そして親御さんたちの協力も仰がんといかんいうところありますので、今一体になって進めているところですので、また足らんところがあつたら言っていただいたらと思います。よろしくお願ひします。

【小学生】 僕たちのさくら小学校は、ボール遊びができる場所はさくら小学校と富久公園しかありません。だから僕たちにはさくら小学校まで行くのが遠いから、近くのさくら公園でボール遊びができるようにしてくれませんか。

【都市政策課長】 都市整備部都市政策課の松本です。ボール遊びができる公園をとということで、基本的には公園での例えば野球とか広い場所がい

るところではできないことになっております。松山市では試験的に七つの公園でボール遊びができるようにしてございまして、今後それぞれの公園に公園の管理協力会がありますので協議させていただいて、できるかどうかやっぱりある程度面積がないとなかなか難しいというのはご理解いただけたらと思います。以上です。

【市長】 実は難しいところがあってね、松山市は「市長へのわがまちメール」、直接メールが届く制度があるんですけど、公園の周りに住んでる人から、子どもたちが遊ぶボールがどどんうちの家に入ってきて、窓にあたりたりとか勝手に家に取りに来たりして、ちょっと嫌な思いをしてるんです、なんとかしてくださいみたいなメールも入ってくるんですよ。ボール遊びをしたいというのもわかるし、周りの人のご意見というのもわかるんですよ。子どもたちはやっぱりボール遊びしたいだろうから、平成18年度から松山市は1年に1カ所ずつというペースではあるんですけども、ボール遊びができる公園を増やしています。今までに平井の平井公園、北条の河野別府公園、中野町の中野公園、久万ノ台緑地、堀江中央公園、小坂の福音公園、白水台北公園とか増やしています。学校の昼休みに学校のグラウンドでボール遊びしたりとかサッカーしたりとか放課後したりとかはできますか？

【小学生】 できます。

【市長】 できますか。でも公園でもできたらいいよね。これはやっぱり公園管理協力会の方々とお話しながらっていうことですかね。はい、わかりました。

【男性】 ちょっと関連で。非常に子どもが今言ったような形で遠いわけなんですよ。だから子どもだけの意見じゃなくて地域としての意見としてぜひ取り上げてもらいたいわけなんです。その中で十分そういうものを検討してほしいわけなんです。我々二つ公園があるわけですが、非常に両方も遠い。そして今言うように我々の集落はさくら小学校と余土小学校に二つに分かれとるいう非常に不便ですので、子どものご意見十分反映させしてほしいなということをお願いしたいと思います。

【市長】 はい、わかりました。私たちが子どものころは、空き地とかあってそこでキャッチボールしたり、やわらかいテニスのボールで野球したり、また企業さんがグラウンド持っててそこで野球やらせてもらったりできたんですけど、それがなかなかちょっと難しい時代になってきてるので、皆さんの声が多ければ多いほどそれは実現に向かって進みやすいと思いますので、また教えていただいたらと思います。

【男性】 まちづくり協議会の現在会長をしております。よろしくお願

します。前回1巡目のタウンミーティングの席上、市長のご決断によって長年20年来の課題でありました、余土中学校の移転整備について推進することができました。誠にありがとうございました。今、まちづくり協議会としましても特別委員会を設置させていただいて、色んなご意見をまとめて市のそれぞれの担当の人とお話をさせていただきたいと思っております。先ほどの通学路についてもその一つではございますが、また今後とも地区と松山市で協議をできたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。その跡地に関連いたしまして、あそこの地区は地域のコミュニティゾーンと福祉ゾーンといわれるところ、あと売却ゾーンという形になっておるんですが、余土地区の中心地ということもありまして、あそこを余土地区の色んなインフラの中心にしたいと。あそこに行けばミニ市役所のような色んな行政サービスについても受けれるし、社会教育的なこともあそこでできるというような、先進地のような考え方で進めていただくと、余土に住む者にとっては跡地がああいうふうになってよかったなと思えるんだろうと思うんで。売却ということもあるんでしょうけど、費用の問題で。できる限り市の施設及び余土地区のコミュニティということで残していただける方向も一つの検討方向として考えることができるのか。それと、今、松山市農協の余土支所の横に消防のポンプ倉庫もございいますが、そういうようなのも含めて全部あそこの中学校の跡地へ移転するような総合的な計画いうのも、また策定をお願いできたらなと思っております。そういう計画があればまた教えていただきたいと思います。

【教育委員会企画官】 教育委員会でございます。跡地利用の方針の一つにあるとおり、先ほど会長さんおっしゃられましたように、地域活動の拠点となる公民館を跡地に移転整備するほか、地区における市役所窓口の支所についても敷地内に将来的な移転用地を確保するとしておりまして、余土中学校跡地を余土地区のインフラの中心にするということで取り組んでまいりたいと考えております。

【消防局総務課長】 消防局総務課の中矢でございます。今、消防ポンプ蔵置所も耐震化事業を行っておりますので、統合を主眼として施設を整備しておりますので、その耐震化計画の中に余土のポンプ蔵置所もございましたら、今回の貴重なご意見を参考にさせていただいて移転も含めた検討をさせていただいたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【市長】 私のほうから一つ。消防ポンプ蔵置所が各地区にあるんです。皆さんもわかりやすいので覚えといていただいたらと思うんですが、昭和56年に耐震基準は変わっているんですね。大体、昭和56年以降だったら新しい耐震基準でつくっているんで、まあ大丈夫だと思っていかなと。

その前だと古い耐震基準でできているのでちょっと心配かなと。でも古い建物が全部耐震の度合いがだめかというところじゃないんですよ。耐震を満たしているものもあります。余土のポンプ蔵置所も耐震基準を満たしているのか満たしていないのか調べる必要があります。今日は持ち帰らせてください。2階建のポンプ蔵置所でかつ耐震基準を満たしていないもの、2階建でつぶれてしまった消防分団の車が出れなくなったら困りますので、今、2階建でかつ耐震基準を満たしていないものを優先的に切りかえを進めているところです。

【男性】 昨年小学校の通学路の点検のときに、さくら小学校のPTAの代表として同席させていただきました。そのときに、僕たちの目を見て、通学路ここが危ないですよっていう市の方、警察の方が来られてお話をさせていただいたんですけど、小さい川があるところに車が通って、子どもが通学するすごく狭い道で、ここに柵をつけてくださいっていうお話をしたんですけど、そのときにその担当の方が、ここにはできませんというお返事をいただいて、なぜですかという話をしたんですけど、川の深さが基準に満たないのでここにはできませんというお話をされました。そのときに僕も引かなかったんですけど、この集まりは京都の大事故の教訓でやってるんですよって。そしたら危ないとされるようなところはもうちょっと考えるべきではないでしょうかという話はしたんですよ。これ松山市全体になると思うんですけど、つくれないっていう基準は当然松山市お金の問題があるのでわかると思うんですけど、通学路とか危険な箇所に関しては少しそういう基準を緩和していただいて、京都のような事故が松山で起きないような形をまた考えていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

【教育委員会企画官】 教育委員会でございます。通学路の柵ということでございますが、まず再度もう一度場所を教えてください、柵をするのが市役所内でどの部署が適切かどうか、それでできるかできないかをさまざまな観点から判断してまいりたいと考えております。それでお願いしたいんですが、よろしいでしょうか。

【男性】 ちなみに僕が言ったところは、柵ではないんですけどポールができてました。この前通ったら。対応はしていただいたんですけど、通学路という考えを少しでもちょっと緩和していただいて、危ないところは少しでも直していただくような形をとります。

【市長】 わかりました。まず職員の対応についてお詫びを申し上げたいと思います。ちょっと詳細がわからないので推測でものを言うんですが、そこで職員は即座に言うべきではなかったと思います。それはできる方向

で、何ができるのかっていうのを考えなければいけなかった。即座にここはできませんと答えたことについては、すごく嫌な思いをされたのではないかなと思います。すみませんお詫び申し上げます。実はこういう例がありまして、歩道もあって自転車も通れるところもちゃんとあってっていう道と、生活道路って日ごろ通る道があります。そういうところには横に水路があって溝があって水が流れてるっていうのがあります。そこをふたしてくれたらいいじゃないか、道が広がるからっていう話はよくあるんですけども、実は水路というのは農業されてる方が使っているんですね。そこにふたをすると、確かに道は広がっていいんだけども、農家の方々からすると、いざそこにごみがつまっちゃうと掃除がしにくくなる。水があふれることもあるので、できたらふたはしてほしくないっていうご意見もあるんですよ。それともう一つ、やり方としては先ほど言っていたように、水路との間にパイプを設けるやり方もあります。もう一つ考えないといけないのは、逆にそうやって道を広げることによって、そこを車が余計にスピードを出すようになって、逆に危険度が増してしまう例もあります。ですので、やっぱり職員は聞いて帰って、どのような対応が一番いいと思いますっていうのを言わんといけなかったと思います。そういう例がありましたので、我々一同よく胸に入れさせていただいて、二度手間になるんですけど、ちょっと地図見ていただいてここだったんですよっていうのをまた教えてもらったらと思います。

【男性】 この間、要望もしてきたわけですが、今、我々が住んでいる集落の上は飛行機が飛んで騒音の問題があります。そして今度は空港線ですね、外環状の問題。外環状が通ることによって、我々の集落は分断されるという形で、この問題をいろいろ市の担当者等も話していたわけですが、今まで何ら進展がないわけですが、そのことについて、文書で上げておるわけですが、一担当者でなくて本当に責任のある者がイエスかノーかいうものを、もう2年もいろいろお話をさせていただいておるわけですが、一切結論が出ておりません。そういうことで、責任ある方が出てきて話し合いをしていただきたいということと、この話し合いの中でほとんどが国あるいは県に追随した形で、担当者が市民の目でこれを対応しているのかどうか我々は非常に疑っております。そういう点を一つお願いしたい。最後にもう一つは空港の問題ですが、噂によれば空港管理が民間に移る云々というのがあるわけですが、これは絶対我々地元としては反対で、今までとおりの形で運営をやっていただきたいわけですが、そういう点を一つ聞いていただきたいと思います。以上です。

【市長】 外環状線のこと、何ら進展がないということであれば由々しきことですが。松本課長お願いします。

【都市政策課長】 都市整備部都市政策課の松本です。まず余土地区の皆様におかれましては、松山外環状線、大きな関心があると思います。今のご指摘の内容につきましては、まず外環状線は国と県と市が協力をして役割分担を決めて現在進めております。今、おっしゃられた空港線は国道56号から松山空港までの間、インターチェンジから56号まではインター線といいます。空港線の設計協議の段階から地元の方と国・県・市と協議をさせていただいて、大きな道路ができるということで横断するのに難しくなるんじゃないかというご意見もあって、一部設計の変更をして、できるだけ地元の方のご意見を聞くようにして進めさせていただいております。まだ要望等あると思うんですけども、今後とも地域の皆さんと協議をさせていただきながら、工事を進めさせていただいたらと思います。それと騒音の件ですけども、松山空港が近いということで垣生地区やこの余土地区の皆さん大変ご迷惑をおかけしております。そういったことで、騒音対策として音が出ないようにとか、エアコンとか地域の方々への支援をさせていただいているわけなんですけれども、今後とも生活道路であるとかそういうできるだけ騒音に支障がないように地域の皆さんとお話をして進めさせていただいたらと思います。最後に民営化の件ですけども、現在のところ松山空港を民営化という具体的な話は出ておりませんのでご報告をさせていただきます。

【市長】 はい、私から。外環状線で通り抜ける交差点の箇所は担当課から報告を受けているんですけども、余土地区の要望を受けまして当初の計画より3カ所増やす形で、今、動いていると聞いておりますので、それについてはご安心をいただけたらと思います。

【男性】 そういうことを、さっきも言ったように常に連絡したくれないんだけれども、課長か部長か知りませんが、いつやったか御存じですか。我々もこのことを解決してくださいよと言うとるんを、人事異動で動いたら一切ないと。こんなことがね、やっぱし市民の目に立ったら、もう少し考えていただいてもいいんじゃないだろうかということで、十分市長も指導していただきたいわけなんです。以上です。

【市長】 これは余土地区の皆さんには、どういう機会に伝わっているんですかね。それとも、今3カ所増やすというのは最新の情報だったから皆さんに初めて伝わったのか。どうなんですかね。

【都市政策課長】 地域の方々と、ちゃんと協議説明させていただいて進めていると聞いておりますけども、今そういうご意見いただきましたので、

改めてちゃんと説明をするようにいたします。

【市長】 私、この立場をいただいてから思いますのは、行政の癖みたいなものがありまして、行政は何か事が決まらなないと発表しない傾向があります。色んな立場の方がいらっしゃるので、決定をしてからお話をする形になるのが多いと思うんですけども、できるだけ説明ができるんだったら途中段階でもいいから話をしよう、今、言っているところです。そのあらわれが、先ほど見ていただいた通学路の安全対策の状況。こういう方向で考えていますというのを言いましょうという形で、今、意識の浸透に努めているところですので、ご意見を生かしていきたいと思います。また、皆さん御存じだと思いますが、なぜ外環状線をつくっているのかについてご説明をさせていただきます。全国の24拠点地区で地元にあるインターチェンジと地元にある空港が何分時間かかりますかという調査をしました。30分以上かかると答えたところが4地区、その中の一つが松山。松山インターチェンジから空港までが大体30分以上かかります。そしてあとの三つが北海道の3地区でした。つまり北海道の広大な大地と松山が同じような状況になっている。松山インターチェンジがあつて、いっぺん天山・朝生田まで入ってきて、環状線回って新空港通りに入る。でもそうじゃなくて斜めに渡すことができたなら早くなる。30分以上かかるのをおよそ10分に短縮するために、今、外環状線をつくらせていただいております。皆様にもさまざまご協力をいただいていると思いますが、これには大きく五つのメリットがございます。東日本大震災が起こりまして皆さんを輸送する緊急の避難路、そして荷物を輸送する緊急の避難路・輸送路にもなる。そして、やはりこれができてないと渋滞をします。例えば渋滞をすると、車と車の間を自転車縫うように走る。そうするとバイクも走る、ぶつかる。交通事故の発生にもつながっていく。そして渋滞すると当然CO₂が発生していきますので、地球温暖化対策にもなる。そして、荷物も定められた時間に届くようにもなる。松山港も控えておりますので、そういったさまざま五つのぐらいのメリットがあるので、今、松山外環状線をつくっております。今、国と県と市の三者が共同してやっています。これは松山市にとってはありがたいことで、全部松山市やっってくださいって言われたら、ざっというと3倍の事業費ということになりましょうか。ここで事業費をいっぱい使ってしまったら、ほかの松山市の何か事業はできなくなるだろう、難しくなるだろうってことですから、国・県・市で連携してやれているのは非常にありがたいことだと思っています。今、国も1千兆円の借金を抱えていますので、国もしんどい言ってるんですけども、予定が延びることは避けたいと思いますので、その都度国や県に要望して、今、

事業を順調に進めるようにやっているところでございます。

【男性】 松山の30分云々言いましたけど、四国のどこをとっても高速のところには全部空港はできておるんですよ。こんな市内に入っているのは僕は記憶してるのは松山と博多だけやないかと思うんですよ。それをね、30分云々いうことは、僕はおかしいんじゃないかと。その高速ができたところに飛行場ができておるんじゃないかと僕は思っておるんでね。ちょっとそれはおかしいような感じがするじゃやけどね、そういうことは。それと避難道路になる言いましたけどね、我々もその道路を地域が使えるようにできないかというたら、国の人にはそれは難しいと言いますよ。そういうことも怒っとる。その辺を十分勘案してほしいなと思います。以上です。

【市長】 ご意見として伺っておきます。はい。

【男性】 こんにちは。私、生涯スポーツの一つであるグラウンドゴルフの愛好者の一人なんですけど、近ごろグラウンドゴルフをするということで、瀬戸内海の対岸の中国地区にたまに行くんですが、中国地区のほうに行きますと、市営とか町営の専用のグラウンドゴルフ場があっちこっちに点在してるんですよ。そこのあたりに行って使わせてもらおうと、このあたりに比べると結構いい施設をこんな山の中に、こんなとこに本当につくって大丈夫なんかなあいうところ、いろいろあるわけなんですけど、帰って松山で見えますと松山近辺というのは、グラウンドゴルフ場の専用というのはほとんどないと。その中で一部の公園の多目的のところをある程度流用させていただくとというのが現状なんですけど、そういう中でこれから生涯スポーツということで、だんだん人も増えてくると思いますし、この地域には市坪橋から出合橋の河川敷、ここあたりの利用とか、それとここ中央公園の外周部の利用をするとか、これから高架橋が中央公園を通ると思うんですけど、そこあたりの下の有効利用をして、まあグラウンドゴルフというのはある程度、面というかやっぱ線でいろいろやれる面もございますから、そういうところをいろいろ公営の施設が松山近辺にまずほとんどないわけですから、一つご検討していただいたらと思っております。以上でございます。

【市長】 はい。これ私から答えます。私もグラウンドゴルフの大会に行かせていただくことありまして、あいさつをさせていただく。立岩の水辺公園にはグラウンドゴルフの専用コースがあります。ほかにできる場所としては中央公園の運動広場、多目的競技場。いわゆる競輪場のバンク内の芝生部分ですとか、別府の市民運動広場、拓川の市民運動広場、北条の河野別府公園、野外活動センターも含めてグラウンドゴルフができます。私

も生涯スポーツとして関心がありましたので、岡山・広島の例と比べると認定コースというと確かに愛媛は少ないです。これから生涯スポーツとして大事だと思いますので、ちょっと研究をさせていただいたらと思います。ただ、河川敷が結構難しいんです。というのが御存じのように重信川は一級河川で、国管理なんですよ。できるだけ河川敷にはものをつくってほしくないというのが、治水、水を治めるほうからすると、いったん洪水が起こったら、スーと流れて行ってほしいわけですね。何か障害ができて、そこに大きい木や枝がふさいでしまって、水の流れが変わって堤防が切れたらみたいなことを国は特に水を治めるほうは考えるようなので、なかなか河川敷は難しいところがあります。ですので、ちょっとさまざま検討させていただければと思いますので、研究させていただきます。

【男性】 ちょうど今日は防災の日でございますので、防災の問題を一点お尋ねをしたいと思います。現在、私どもが生活をしていくうえで、皆さん方非常に地震や災害等の問題は深い関心がおありでなかろうかと思えます。そこで災害等が起こりました場合の、緊急時のいわゆる避難場所の確保についてでございますが、私ども現在余土地区の状況を見てみましても、小中学校であるとか、一部の緑地公園に限られた部分にしか避難ができない、いわゆる空き地がないという現状だと思います。そこで今後の問題として、先ほど中学校の跡地の利用の問題が出てまいりましたが、ほぼ固まりつつあるようではございますけれども、今後整備をしていくうえで、若干の余地でも避難の用地として確保をお願いできないかと、そういったことをご検討いただければありがたいと考えます。よろしく申し上げます。

【市長】 分かりました。私から現状をお伝えします。皆さんにも知っていただきたいので、余土地区の避難場所と避難所、どこにあるのかお伝えをさせていただきます。一時避難所と避難所は違うんですね。何が違うのかというと、一時避難所は一時的に緊急的に避難する場所で公園やグラウンド、空き地などが一時避難所になります。そして避難所というのは、寝たり食ったりを共にして、一時的に保護するための施設ということになります。とにかく一時避難してくださいというところは七つありまして、保免公園、出合公園、余戸東すみれ公園、余戸東竹の宮公園、余戸中新開公園、余戸西さくら公園、そして広域の避難地になっているのが、この松山中央公園です。そして寝食を共にするほうの避難所は、さくら小学校、余土公民館、余土中学校、余土小学校、余土保育園、余土公民館保免中分館、余土公民館市坪分館、そして椿中学校となっています。高齢の方、避難所生活がこの方は困難だろうという方もいらっしゃると思います。障がいのある方、そういった方は特別な配慮をさせていただこうということで、二

次的な避難所として、福祉避難所を設けます。そこは「であい」、「身体障害者養護施設スマイル」、「生活介護事業所スマイル」、「アテナ」、「ゆうゆう」で、この5カ所が福祉避難所という現状になっております。消防の中矢課長から追加あれば。

【消防局中矢課長】 消防局の中矢でございます。地震等の被害想定が国・県から次から次へと出されまして、それを踏まえまして、今、松山市も地域防災計画の見直しを行っております。その中で避難所についても、避難所・一時避難場所等につきましても見直しを行っておりますので、国や県などの被害想定との整合性を図りながら、今後検討してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 私からお願い。皆様のご自宅に平成23年の3月に全戸に配布させていただいた、防災マップというのがあります。これを皆さんぜひ見ていただきたいんですが、これを配った後に東日本大震災が起こったんですが、じゃあこの防災マップが全然使えなくなったのかということそんなことは全くありません。想定が変わってきまして、改定作業に入っております。来年度に改訂版を出します。改訂版をまたお配りしますので、参考にさせていただいたらと思うんですが、実はすごくわかりやすいデータがありまして、皆さんもご自分のお家で見たいですけれども、何らかの災害に遭遇するだろうと思っている人は75%いるんです。何らかの災害に遭遇すると思っている人はおよそ8割いるんですね。でも、地震に備えて家具固定している人は19%、2割しかいないんです。自分は災害に合うだろうと8割の人は思っているんですけども、じゃあ実際家で家具固定している人は何割ですかということ2割しかいないんです。この8割と2割の差。この防災マップは、実は愛媛大学に矢田部先生という防災の権威がいらっしゃるんですけども、矢田部先生などともお話をしながらつくった入魂のものでございまして、例えば、中を見ていただいたら蛍光色がついているところがあります。以前の防災マップはもっと派手かましい蛍光色だったんです。わかりやすいように。でもそれをすると、目の不自由な方からすると、逆にその蛍光色は見にくいというご指摘をいただいて、そういう色まで意を配った防災マップです。ですので、ぜひとも役に立つ事柄がたくさん書いてありますので、皆さんにはこれを活用していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【中学生】 こんにちは。余土中学生です。今年の水泳の時間に思ったんですけど、余土中の近くにマンションがあって、そこからプールが丸見えで恥ずかしいです。次の余土中学校のプールはマンションなどから見えないように対策をしてほしいと思っています。

【教育委員会企画官】 教育委員会の梶川でございます。現在、まだ配置計画というのができておりません。プールも一階になるか上になるか、それすらまだ決まっておりませんので、ただですね、貴重なご意見をいただきました。屋根をつけるというのは簡単にはできないんですが、何らかの目隠し対策か何かをやっていかないかと思っております。

【市長】 気持ちとしてよく分かります。

【中学生】 こんにちは、余土中学生です。余土地区は子どもが多い地域にしては、少し街灯が少ないと思います。帰りが遅くなったときとか、特に冬は日の入りが早いので、帰り道が不安なので街灯をつけてほしいです。

【市民部長】 市民部の吉野です。街灯が少ないということですが、これは市民参画まちづくり課というところで、防犯灯という形で設置の助成はしておりますけれども、つけたらつけた後、電気代とか維持管理経費がかかります。この維持管理経費については、市役所が持つのではなくて地元の町内会で持っていただくことになっていまして、そういうこともありますので、まずは町内会長さんに相談していただいて、このあたりにつけたいんだけどということ、そこからスタートしていただいたらと思いますのでよろしく願いいたします。

【市長】 この防犯灯のことで追加させていただきますが、防犯灯のことはさっきのプールの話と同じで、女の子だったら特に思うと思います。これ自分のまちを考えるいい機会だと思うんですね。一人では町内会長さんに言いにくいと思うかもしれないので、例えばお友達、女の子でまとまってここに欲しいんですみたいなことを伝えたらどうかなと思います。実は防犯灯っていっぱいついてればいいじゃないかと思うかもしれませんが、前の仕事のときに農業関係の方から言われてびっくりしたことがあるんですけれども、街灯が近くにあると稲の生育にはよろしくないそうです。いっぱい街灯があったらいいかなと思うかもしれないけれども、実は設置する場所もちょっと選ばなくちゃいけないという面があるので、どうでしょう、皆さんでまとまって町内会長さんに言うとか、もしちょっと不安だなと思ったら、先生に相談してみるとか、まちづくりの第一歩だと思うので、関心を持っていただくのはすごくいいことだと思います。

【男性】 どうもこんにちは。市坪町内会です。いつもお世話になります。今、JRの複線化の工事をしているんですけれども、これに伴って私どものトンネルが3カ所あるんですけれども、この2カ所が非常に狭あいだで拡幅してほしいと申し入れをいたしまして、この3月から5回ほど、県・市それからJRさんと折衝をしまいましたが進捗をしております。なぜこんなことを言うかといいましたら、市坪町は昭和20年、終

戦の年ですけれども、この年に阿久根台風がありまして、約一週間水に浸かりました。約2メートルくらいの高さだと思いますけれども、そのときにはトンネルがなくて、一週間水に浸かって最終的に水が引いたのは、今のJRの土手が200メートル決壊して、それで水が引いたという経緯があります。そのときには枕木がレールについてぶら下がっておったと、それを元に戻したのは市坪のお百姓さんが戻したという経緯があって、今みたいに集中豪雨で方々のところがニュースで出てますけれども、こうなった時に、もし重信川、石手川、それから傍示川ありますけれど、これが浸かったときには、今の暗渠（あんきょ）ではなかなか水をはくことは難しいと。ですからちょっとでも広げてほしいという要望を出して、今まで折衝してきました。なかなか国庫補助ということで難しいというお話をされてましたけれども、じゃあその代わりに重信川の河床がおそらく私ら子どものときからしたら2メートル以上は上がつとると思います。堤防も2メートル、3メートル上がったということになってますけれども、浚渫（しゅんせつ）をすればかなりの水量が流れるんじゃないかと思えますんで、そのあたりはトンネルの拡幅ができれば一番いいんですけれども、まずそのときには先ほど防災の話がありましたけれども、一時避難をここへしたときに物資の輸送、これも容易にできると考えてますので、工事が始まりますから、なかなか難しいとは思いますが、市のほうからも助成をお願いしたいというふうに思います。

【都市政策課長】 それではまず鉄道高架事業に伴う、市坪駅から環状線までの行き違い線の工事、現在市坪駅のところから北側、鉄道高架に伴う行き違い線の工事をさせていただいております。それと、松山外環状線、皆さん御存じのとおり今工事を進めさせていただいております。特に市坪地区の方には大変大きな工事でご迷惑をおかけしておりまして、誠に申しわけありません。今、ご意見の市坪駅の南側、市坪側から中央公園へ人と自転車が通れるボックスがありますけれども、そここのところについては協議をさせていただいたときにご説明しておりますとおり、高さの関係もあってここを広げるというのはなかなか難しい状況にあります。外環状線がその南側にできるわけですけれども、当然、自転車・歩行者道が大きなものを整備するところをございますので、ご理解をいただけたらと思うんですけれども。あと傍示川の整備につきましては、現在下水道部でしておりますので、進捗状況等ご説明させていただきます。

【下水道政策課長】 下水道政策課の青木と申します。よろしくお願いたします。今年は非常に雨が全国各地で被害の状況が出まして、大変ご心配をされておると思います。先ほど市長からもありましたように、重信

川・石手川は一級河川で国土交通省の所管ということではございますが、松山市も同時にいろいろ協議会を持っております。その中で順次要望をしておりまして、堤防については先ほどおっしゃったように大体できておるということで、洗掘とか堤防からの漏水、こういうところがまだ数カ所大雨のときに支障が出ますので、そういうところを解消することを市からも一緒に協議をしているところでございます。そしてこの地区について、一番の水害対策として我々が取り組んでおりますのが、先ほど課長も申しました傍示川の改修でございます。この改修につきましても現在約90%程度が整備をしておりまして、平成27年度末には、おおむねの所定の断面、現在よりも3倍ぐらいの能力のあるものにできるということでございますので、そういうことと合わせてソフト対策として避難所の開設、そういうところも一緒になって水害対策には取り組んでまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 大体、年に2度3度、国土交通省に足を運んでおりまして、実は四国の治水、さっきも言った水を治めるといのはまだまだのところが多いんです。国土交通省はお金が削減されていると言われてるんですけども、いやいや四国はそんなふうにも思ってもらったら困る言うて足を運んでいるところです。今回、石手川にかかっているJRの橋が高架と、今、松山駅を新しくしようというので高架化と複線化に合わせて、ここが狭くなっていたんですけども、ここを広げる工事が実施されることになり、JRの鉄橋のところでは狭くなるとった川が広げられるようになりましたので、安全度はより増すようになりますので、さまざまこれからも国にも言っていきたいと思っております。

【男性】 まちづくり協議会理事をしております。どうぞよろしくお願ひします。今回、事前に意見を出させていただいておったんですが、2年前の見ましたら3番のところの水問題、これにちょっと関連しとるんで、これをちょっと見させていただいたところ、西条の黒瀬ダムから分水を最優先しとりますと、そして費用が350～420億円ぐらい要りますよと出とります。ところがテレビ等で西条は絶対松山に水あげませんよっていう話やったと思うんです。もらえないと思うんですが、万が一くれるようになるんかどうか知りませんが、この時点では西条は松山にはあげませんと。そして面河ダムから農業用水とか工業用水を引いておるんですかね。それらを考えましても18年前くらいの大渇水がありましたけど、ダム関係は大渇水があるときは大変危ないと思っております。絶対水くれるところがあるんです。瀬戸内海です。瀬戸内海の海水を淡水化したらどのくらい費用がかかるか、420億以内でできるか私ら素人には市から説明がないからわかりませ

んが、そういう計算もして経済的にどっちが有利なんか、そして大渇水
のときには海水を淡水化したのを工業用水に、以前の面河ダムから来とった
水を一般の家庭へまわすという対策もあるんじゃないかと思いますが、そ
の辺どなんなのでしょう。

【市長】 はい、ご説明申し上げます。皆さんには節水にさまざまご協
力をいただいております。類似の規模の都市の中では松山はかなり優秀な節水都市とい
うのができています。でも毎年のように取水制限が行われます。石手川ダムは人口が37万人の
設定でつくっておりますので、既に15万人分不足をしているわけです。松山の水源は二つ
しかありません。石手川ダムともう一つは地下水でやりくりをしています。でも地下水は年々減
っている状況、また地下水はダムと違って上から見て何%だなんて見ることができないもの
です。ですので、地下水に頼ることは中々難しい。二つの水源しかありませんから、どちらか一つが
何かあれば、たちまち松山市は時間給水とか、一番酷い時は6時間給水とい
うのがありましたかね、あの渇水ときは。そのような事態になるとも
限らない。ということで松山市はこれまでにさまざまな観点から想定でき
る19の方策を挙げて調査研究を重ねてまいりました。そして安定的に水
の量を確保できる黒瀬ダムからの松山分水と先ほどおっしゃられた海水
の淡水化の二つに絞られているわけです。この海水淡水化と松山分水ど
ちらが良いのかを研究しましたら、海水淡水化は確かに天候にも左右させま
せん。でも、塩水を淡水に変えていくわけで常に動力が必要になります。
そして膜をつくりますので膜の交換費用も要ります。淡水化すると濃い塩
水ができますから、その濃い塩水をどう処理していくのか、漁業補償の問
題もあると思います。西条からお水をいただいて、松山分水ができた場合、
水道料金は10%から15%上がりますけども海水の淡水化をした場合
は40%の水の値上げになります。これを考えますと、やはりコスト面で
優れる西条市からのお水を分けていただくという選択をさせていただ
いているところです。私、就任させていただいてから皆さんにもう少しちよ
っと情報がわかってないんじゃないかなということで、就任してすぐの平
成23年1月15日の広報まつやまでお子さんにもわかりやすく、漫画や
イラストも入れて特集記事で皆様のご家庭に配らせていただきました。進
んでないんじゃないかなって思われるかもしれませんが、今、愛媛県、新
居浜市、西条市、松山市の4者で水問題に関する協議会ができております。
冷静に科学的なデータに基づいて話ができるという場ができてるのは
非常に大きなことです。今年の5月には8回目の協議が行われました。西
条市から「うちぬき」に代表される地下水と加茂川の環境を調査した研究

成果について報告がありました。今後はこの報告をもとに協議が進められてまいります。なかなか皆さんもどかしいと思われるかもしれませんが、やはり水というのは非常に繊細な問題です。相手さんのあることですから、こちらからはお願いする立場になります。一つ一つ議論を積み重ねていくことが大事だと思いますので、誠心誠意交渉させていただきます。先ほど、冒頭申し上げた余土中学校の移転には30億円という総事業費がかかります。我々も30億円どう捻出するのかを常に考えているところでございます。ですので、西条市からの分水考える上でもコストっていうのは非常に考えているところです。もちろんそのあたりコストのほうもしっかりと考えながら進めてまいりますので、どうぞご協力のほどご理解のほどよろしくお願いいたします。

【男性】 公民館中の考分館です。外環状線に関連した質問ですけれども先ほど市長が説明されたように外環状線ができると非常に便利になるし発展にもつながることが多いんですが、道路ができるとその道路の直下にある住宅、周辺の住宅は非常に被害が大きく出ていくわけです。この坊っちゃんスタジアムの隣も工事が進んでおりましたらわかるように、コンクリートの二階建ての道路が家の前にできるわけです。刑務所の塀ができるようなもんですよね。そういうことで、非常に景観が悪くなるし殺風景になる問題があるのと、ご承知のように騒音の問題、振動、排気ガス、光の問題とかいろいろ環境の悪化が進みます。またそれだけでなく生活圏が分断されるもんですから、農家の方が自分の畑に行くのにも、この道路を越えて、くぐって行かなければならない。親兄弟のところに行くのにも非常に不便をきたすことになります。普通の道路であれば道ができれば便利になるし地域にもぎわいが出てきますけど、こういう高速道路、高規格道路、その直下は早く言えば迷惑施設であります。そういうことで全体の為、あるいはみんなの為に、市の発展の為に黙っておれというのではなく、そういう直下周辺地域の住民の痛みといいますか被害にも十分光を当てていただきたいと思います。市長さんにはもう市民主体の市政とか安心で安全のまちづくりということに努められておりますけど、こういう小さい問題につきましても国や県に目線を合わせるのではなくて、住民側に目線を合わせて住民の傷みとか影の部分こういうところに光を当てていただきたいと思うんであります。具体的にいいますとこの道路工事にあたって、今、言いましたような被害不便が極力小さくなるような道路工事について国や県と折衝して少しでも軽減されるような道づくりをしていただきたい。それと市でできる事業、例えば住民の負担軽減、支援策、具体的にいいますと福祉施設とかコミュニティ施設、教育文化施設あるいは公園

などの整備につままして、道路がつくことによって被害が生じる地域を優先していただいて事業の新設なり、また既存事業の優先配分とか増額とかをお願いしたいのであります。いろいろありますけども市長さんのご高配をお願いいたします。

【都市政策課長】 都市政策課です。まず余土地区の皆さんには外環状線において用地買収、また工事において大変ご迷惑をおかけしております。今のご意見にありましたように騒音あるいは日照、こういったことについては国、県、市で協議、協力してちゃんと対応するようにしたいと考えております。今後とも地域の方とお話をさせていただいて、スムーズに工事完了できるように頑張って努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

【市長】 どうもありがとうございました。予定しておりました3時30分を超えましたので、この辺でまとめの言葉とさせていただきたいと思えます。余土中学校のことですとか、また外環状線のことですとか今回のハードの面のご意見が多かったかと思えます。これからもしっかりと皆様の言葉を胸に誠心誠意動いて行きたいと思えます。皆さん御存じのように私は一市民からこの立場をいただいた人間です。市民感覚の詰まった人間だと思っております。私から皆さんにお願いしたいのは市民の皆さんと行政との距離をもっと近くしていきたいと思っております。そのためには行政と市民の皆さんが反目するような関係であっては良くない。我々もこのように現地現場に出て行ってご説明をさせていただくタウンミーティングを繰り返して行きますし、皆さんもどうぞ、どうせ市役所に言うたっていかないとか思わずに、敷居を高くされると距離が離れていくばかりですので、そういうふうにお考えにならないで、手をたずさえてやっていけば色々な事がうまく進むようになりますので、どうぞご協力を願ったらと思えます。こうやって41地区でタウンミーティングをやっておりますけども、41地区のタウンミーティングごと例えば市長あれやってください、これやってこれもやってって言われるんですけども私も人間です。皆さんからそういう要望いただいたらやりましょうって言ったほうが楽なんです。でも私はそれはやりません。それをやってしまうと将来の子どもの世代、孫の世代にツケを残すことにほかならないからです。でも皆さんの声はいただきたいと思えます。今、国は1千兆円の借金抱えてますから地方交付税交付金とか国庫支出金という形で地方にお金が回って来るんですけども、もともとが大借金抱えてますから地方に回って来るお金がこれから増えるとは考えにくい。でも皆様の声にしっかりと耳を傾けることによって、今、何をすべきなのかがしっかりと定まっていくと考えております。ですので

これからも皆さんどうぞ敷居を高くせずに、いろいろお声を寄せていただけたらと思っております。余土中学校の移転、さあ今からっていうことになります。これからしっかりと皆さんと連携をしながら進んでいきたいと思っておりますので、またお力添えをお願いいたしまして私からの結びのごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

— 了 —